

かしま

HOT 通信

1月号 Vol.384

令和7年(2025年)1月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団法人 養生会
〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...
上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
かしま病院広報企画室まで
kouhou@kashima.jp

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォンをご利用の方は、

QRコードを読み取り、アクセスしてください。

PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。



～新春鼎談～

養生会の振り返りと今後の展望

- 中山 大 (社団法人 養生会 理事長)
- 石井 敦 (養生会 理事 兼 かしま病院 院長)
- 中山 文枝 (養生会 理事 兼 かしま病院 診療部長)

いわき市シルバーリハビリ体操指導士会 技能研修会を開催しました

コラム ひんがら目 (211)

『少数与党になり勝手が通らなくなりました』
呼吸器科 部長 山根 喜男

ようこそ家庭医療へ!

リハビリPOST

世界糖尿病デー イベント開催!

かしま荘通信



～新春鼎談～ 養生会の振り返りと今後の展望

巻頭特集

新年おめでとうございます。今号の特集は、「新春鼎談」と題して中山大理事長、石井敦病院長、中山文枝診療部長にお集まりいただき、養生会の1年間の振り返りや今後の展望についてお話しいただきました。

中山 いつものことがいつものように過ぎていった1年でしたけれど、以前から病院の経営は厳しい時代が続いており、経営改善のための問題点抽出は行われてはいたものの、やることはわかっているけどできなかったものが、(経営母体が替わって)着実に具現化されたと感じた年でした。実際、それでもものすごく疲弊したとこかっていうんじゃないかと、むしろ達成感があった嬉しい出来事になった、というのが印象的な1年だったと思っています。

私自身、これからもまだまだ働かせていただきます。よろしくお願ひいたします。

今年1年間、養生会の出来事や力を入れたことなど、振り返ってみていかがでしたでしょうか。



みな大抵やらない・やれない言い訳を探すのに、会議では「どうやったらうまくいくだろう」という職員の話が聞かれます。多くは1年で、それが救急対応件数2千200と、いう大きな目標に到達できたと思うし、すごくみんなの自信にも繋がった年だったんじゃないかなと思います。

その他、「医療と地域」プロジェクト。「いとち」の前進です。今年には院内ファン増やすという目標を掲げ、院内イベントを行い段々と院内ファンが増えていると実感した年でした。

文枝 今年もたくさん課題やプロジェクトがありました。どうやって継続していくかを職員みんなで考えた年でした。

石井 全職員の皆さんがしこたま働いて、働けど働けど疲弊しないうえ、本来であれば疲弊したような雰囲気になってもおかしくないのに、主体的に自分たちができることはなんなのかと考えて行動してくれているというのがすごく感じられて、そこがすごく嬉しい、そんな風にも感じました。

ただ、この状況を長期間続けるのはとても難しいので、何かしらもう少し楽に楽しくできる役割を果たせる道を探していきたいなどの想いで1年間過ごしていました。具体的な解決策を職員全体で模索しております。とにかく職員の皆さんには深い敬意を持っておりま。



養生会のこれからの目標や地域での役割についてお聞かせください。

中山 我々は地域の病院ですから、コミュニティホスピタルとして地域に求められるものに応えていくような組織作りをしていかなくてはならないと思っています。僕ももう60歳になりました、自分が現役の間にはしっかりやっておきたいのは、高齢者医療に関する問題です。おそらく2040年過ぎぐらいまでは高齢化が社会問題になる時期だと思えますが、そこを社会問題だというのはなく、かしまでは「もう何年も前から高齢者医療をやってきていて得意だ」、「困ったことがあったらかしまに来てくれ」と言えるのが理想かなと思っています。職員の皆さんも同じような覚悟ができていると思いますので、引き続き頑張っていきたいです。

石井 実際に地域多機能病院の役割が非常に日々高まっています、我々がその役割を果たすことは絶対にやるべきことだと確信しています。また、医療従事者の高齢化

の問題を解決するために、今は若手の教育ですね。学生、研修医含めて後進を育てることに注力していきたいです。短期的にはすぐく手間のかかる仕事ですけども、これは医療界の将来、未来を作るために絶対に手が抜けないし、より力を入れていきたいと思っています。



文枝 この人口減少地域で地域を盛り上げていくには「病院がまわりの中心の仲間になる」と、ここ数年言われています。私たちは病院という箱から飛び出して、地域に活動の場を広げています。それは、かしまが大事にしていく「人をまるごと見る」というマインドから生まれたものだと思います。特に女性医師が今すぐく増加している中で、女性は家庭を持って子供を見ていくと、地域に密着してきます。女性医師として、地域住民の女性として、母としての眼差しが、非常に地域を健全化していくと思うんですね。なので、外来や病棟の中にあるだけじゃなくて、どんどん活動を外に向けていくべきだと私はすごく思っています。

中山 今、病院中心のまちづくりという話が出たんですけど、我々がヒエラルキーの頂点に立って何かをしるっていうよりも、地域をまわると担保するっていうような印象に近いんだと思うんです。以前から、医療は社会インフラだというお話をしてきましたけど、ほんとにインフラみたいになつてきて、行政の手の届かないところは、ほとんど我々病院がやっていたのかなきゃいけない時代になつてきていると思うんですね。



例えば、訪問診療の仕組みや高齢者救急医療問題は、本当は行政が指導的に行うんなことを進めていかなければいけないけれど、連携すら進まない、地域の苦境を打破するような新しい考えも出てこないとすれば、それはもう我々も病院に閉じこもっている場合じゃなくて、開業医さんの境目もシームレスになつてくると思います。そこにあつて待つているだけの対応というよりは、フットワークよく、いろんなことをしてかなければいけないなつてくると思います。そのためには、先ほどからキーワードで出てますけど、後進の育成っていうのはものすごく大事な話なんです。当院では、キッズ医

者に始まって、研修医や学生さんが来てくれて、専攻医も来てくれるようになって、ここで学ぶ流れができてきたという事はものすごくことなのです。実際その中から協力してくれるような人が出てきているのは、かなり画期的なことです。しかし、それにおこることもなく、もつと拡充した研修システムにできないといけないだろうし、選んでくれる病院になつていくということが大事だと感じました。

文枝 自分の地元があつて、第2の地元が「いわき かしま病院」であつてくれればいいのか。

石井 一番嬉しいのは、かしま病院に学生の時に実習をして、またかしま病院で働いてみようと思つて来て、さらに専攻医として働き、そしてようやく「指導医としても働きに来たい」という声があるようになってきて、そうやって楽しく仕事したり学んだりできる場所になつていけば、きつと益々活性化して発展していけるんじゃないかなと思います。そうならばもう本当に地域まるごと診るという理想が現実に向かつていくと思います。

最後に読者の皆さんへメッセージをお願いします。

中山 健康問題で困らなくても、我々をうまく使ってください。地

域の人たちには逆にこつちから、ぜひ行くようになってくるかもしれないけど、煙たがらないでください。

文枝 人も地域も大好きな医療人が集まった病院だと思っているので、病気がなくても、気軽に足を運んでください。

石井 どうしても、遠慮なく相談してください。

Profile 教えてください

座右の銘 棚からぼた餅、「高いハールは越えるな。くぐれ」

中山大 理事長

座右の銘 「必要は発明の母」

石井敦 病院長

座右の銘 困った敵しい状況下なんだけども、何かしら打破できる方法を見つけたいと思っています。

中山文枝 診療部長

座右の銘 「自分がライバル」

頑張るのも怠けるのも自分自身。自分自身をちゃんとコントロールしたい大人でありたいなど。

いわき市 シルバーリハビリ体操指導士会技能研修会

を開催しました。



11月6日と20日に、いわき市シルバーリハビリ体操指導士会技能研修会を開催しました。

シルバーリハビリ体操とは、医師の大田仁史先生が考案した「いつでも」「だれでも」「どこでも」できる高齢者向けの体操です。いわき市では、現在200か所以上でシルバーリハビリ体操教室が開催されており、参加者に体操を指導しているのが、規定の研修を受けた市民ボランティアのシルバーリハビリ体操指導士です。指導士の皆さんは、地域の健康を支える重要な役割を担っています。

研修会では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士からの講話やリハビリ職との意見交換、リハビリ室の見学など、リハビリについて幅広く学ぶことができました。研修の最後には院長の石井敦先生から講話があり、指導士の皆さんへのアドバイスとともに、日頃の活動への感謝とエールが送られました。

2日間で総勢51名の指導士が当院で学びました。少しでも普通の体操指導の役に立つものがあれば幸いです。今後も地域で活躍する指導士の皆さんの力になれるように協力していきます。



Study

少数与党になり勝手が通らなくなりました
憂うことではありません
対決でなく、全党の叡智で責任ある政策を

新年おめでとございます。
と言いたいところですが、世界のあちこちで紛争が激化しており不安だらけです。グローバル化した現代では、地球の一点で発生した一瞬のトラブルがあつという間に全世界に影響します。

平時には石橋を叩いて渡る熟慮が大切ですが、危急の際には瞬時の決断と勇猛果敢な行動が求められます。平時には多様性が許されますが、緊急時には目標に向かった価値観の共有が不可欠です。



ひんがら目(211)

一人しか当選しない小選挙区制では、拮抗した過半数は、残り半数近くを黙殺します。大量の死票が生じます。各選挙区では辛勝であっても、辛勝が積み重なれば、当選者数は圧倒的多数になります。A党とB党が、交互に辛勝と惜敗を分け合えば拮抗した2大政党党になり、多くの選挙区でA党が辛勝を繰り返せば、当選者数においてはA党の圧勝になります。極端な場合にはA党の独占もあり得ます。

わずかに過半数を越えた政党が圧倒的優位に立つて国会運営が可能になり、しかも、党議拘束があると、政党内での異見が禁止されます。派閥が有効に機能するときには、権力者の暴走にブレーキをかけることができますが、うまく機能しないと、独裁政治になります。こうして、安倍一強は、安定政権を背景に、やりたい放題のことをやってきました。無力化した野党の思考力は劣化しました。

議員の最大の関心事が次期選挙に勝つことにあるようでは、大衆受けの政策に走るか、政治献金に頼る金権政治になります。野党は前者のポピュリズムに、与党は後者の

裏金政治に陥りました。
そんな中、今般の解散総選挙で過半数割れた与党は、勝手には決められなくなりました。理念の近い野党を抱き込むしかありません。誘惑された野党は、俯瞰した政策理念ではなく、選挙受けするポピュリズムに走りまわりました。年収103万円の壁の打破を条件に与党と組もうというのですから困ったものです。

税金を払わなくてはむ程度にしか働かないという生き方は、本人にとっては合理的かも知れませんが、国家を支える国民としての自覚が足りません。税金を払って国を支える気概を持つのが国民の義務です。しかし、今そんなことを公言すれば響きをかうような風潮が社会を支配しています。モラルハザードでもいっていいでしょう。国民が国家を支えるのでなく、国家からいかにかすめ取るかに躍起です。労働に喜びを感じないのでしょうか。

小善は、昨年の勤労感謝の日に後期高齢者の仲間入りをしました。高齢になり期待されているかどうかはわかりませんが、与えられた場所と役と立とうと勤労しています。働くとは、傍(はた)を楽にさせる、に通じます。迷惑にならない範囲で診療に励んでいます。勤労できることに感謝しています。

現場に出て、培ってきた医療レベルを後継に伝承し、長年診てきた患者さんを次世代に任せられるように願っています。

入学試験で、定員割れなのに不合格になるのはけしからん、という人がいますが、合格のレベルに達しない人は不合格です。ダメなものだめなだけです。努力して試験を越えない人間は大きくなりません。

混沌とした世界で日本が生き残るために、働き方改革などと言わないで、老若ともに勤労に汗をかき国力を高めましょう。

(呼吸器科部長 山根喜男)



ようこそ 家庭医療へ!

～ いわきに生きる家庭医育成への挑戦 ～

第179回

日本の正月と言えば…。

石井敦 病院長



皆様、新年おめでとうございます。今回は、日本の正月ならではの疾患についてご紹介します。

60代の男性が、某年元旦の朝、家族とともにお節料理などを大量に食べたところ、夕方から激しい腹痛が出現し、頻繁に嘔吐を繰り返し改善しないため病院に運ばれ、画像所見から腸閉塞と診断され入院となりました。幸い症状はすみやかに改善し無事退院となりましたが、詳しく話を聴くと、男性は年末の29日頃から毎日10個程度、餅を食べ続けていました。また家族によると、普段からとても早食いで、咀嚼時間も短いとのことでした。

餅は日本の正月の代表的な食べ物ですが、一般的な米(粳米)ではなく、餅米を加工して作られます。粳米と餅米はデンプンの構成比率が異なります。まず粳米はアミロースを75%、アミロペクチンを25%ほど含んでいますが、餅米はアミロースを含まずアミロペクチンだけで構成されています。このアミロペクチンは多数のαグルコース分子がグリコシド結合によって重

合し、多数の分枝状構造を有しています。これが餅ならではの柔軟性と伸長性を生み出します。

アミロペクチンもデンプンですから、唾液や涙液中のアミラーゼに曝露されれば速やかに分解されるはずですが、アミロペクチンは水分子を取り込み膨張しやすいという特徴があり、粘度が高く付着しやすいことから、咀嚼が不十分な場合には唾液による分解不足と、腸管内の水分を取り込み餅が膨張して餅の内部とアミラーゼとの接触が妨げられることで腸管に詰まってしまう可能性があるのです。この男性の事例のような餅による腸閉塞は正月から初七日に集中します。餅による腸閉塞の6割弱が1月に集中しているというデータも報告されています。

腸閉塞以外にも餅に関係する救急搬送を経験することは珍しくありません。餅をのどに詰まらせる。熱い餅で火傷する。杵で頭を叩かれるなど様々です。皆様も十分にお気をつけください。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第166回

退院時指導とフォローアップ

ご家族にとっては退院が決まると嬉しい反面、自宅での生活や介護に不安を感じる方も多くいらっしゃると思います。当院では入院患者様が退院する前に必要に応じて家屋調査を行っています。コロナ感染症拡大後は患者様本人が同行するケースが少なくなってきました。病院内において私たちは患者様の身体機能に合わせた環境調整や自宅環境を想定したリハビリを行っています。しかし、実際の場面とリハビリ場面とは、ちょっとした環境の違いによって介助量に差が出る場合があります。また、入院中にご家族と一緒に介助の練習をする機会も少なくなっています。そのため、退院時に自宅に同行し、生活環境の確認と実際の環境

で動作練習や指導を行うことがあります。その際に何か問題があればケアマネージャーさんに報告し、今後関わっていく方々に情報共有していきます。

中には退院後介護サービスの利用がなく何かあった時に相談できる場所がない方もいます。そのような方には必要に応じて退院後概ね2週間～1か月を目安に自宅を訪問し、日常生活に何か問題点はないか確認する退院後フォローアップも行っています。その際には環境の確認だけでなく自宅で行っている運動の確認や提案も行っています。

このように入院中にしっかり準備してから退院しても、実際に生活してみると見えてくる問題点もあると思います。患者様本人だけでなくご家族も不安なく安全な在宅生活が送れるように今後も支援していきます。

理学療法士 酒井萌子



かしま荘通信

かしま保育所の園児さん来荘 11月11日(月)



11月11日(月)かしま保育所の園児さんたちが、かしま荘に来荘して体操を披露していただき、最後に来年の干支の飾り物をプレゼントしてくれました。可愛らしい姿に利用者様たちも元気を貰った様子でした!

world diabetes day
14 November

「世界糖尿病デー」イベント開催! in かしま病院

11月15日、当院外来棟にて「世界糖尿病デー(11/14)」のイベントが開催されました。イベントでは、糖尿病の知識や治療法について、糖尿病療養指導士が答える相談会を行いました。糖尿病のリスクに備えた生活を心がけましょう!

